

令和5年度「構成」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
1	美術科	美術	構成	2	必修
教科書	“つくる・見る・学ぶ 美術のきほん—美術資料 (京都市立芸術大学美術教育研究会、日本文教出版編集部)”				
副教材					

	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
学習の目標	構成・デザインの特徴を理解し、技法の違いや効果、手順等を説明できる。	構成の知識や技能を総合的に働かせて独創的に思考、判断し、表現できる。	構成・デザインが果たす社会的役割や関係性を理解し、新たな意味や価値を創造することができる。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	4	4	2
主な評価方法	主に作品の(途中段階、完成段階、)で知識及び美術の評価を行います。		
	エスキースとワークシートを基に主題の生成や構想、表現に向けた判断力等を評価します。		
		進捗状況、グループワークの様子、自己評価等をもとにデザインへの関心・意欲・態度等を評価します。	

履修上の注意及び学習のアドバイス	<p>①実習が中心の授業となります。指示された画材は各自で準備してください。</p> <p>②授業以外にも制作時間を十分にとって、完成度を高めてください。</p> <p>③内容に応じて、他の専門科目と展開授業を行います。</p> <p>④制作終了時に講評会を行います。講評の際はメモを用意してください。</p> <p>④エスキースや資料集め、動画視聴等の予習が必要な場合があります。指示に従って事前準備をしてください。</p>
------------------	---

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
二高ICEモデルとは？	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	用具の使い方・平面構成	デザイン用具の正しい使い方や平塗り等の基本的な塗り方を学ぶ。平面構成を通して形や色をバランス良く配置するための基礎的な考え方を理解する。		美しい配置とは？
	5	ポスタリゼーション	写真等の画像をデザイン化するポスタリゼーションの考え方や色彩の基礎（色の三要素、三原色、トーン等）を学ぶ。ポスター等の例を挙げ、レタリングについても理解を深める。		色価について考えよう
	6				
	7	鉛筆デッサン	鉛筆（4H～6B）の基本的な使い方、明暗や形の捉え方を理解する。		素材としての鉛筆を活かそう
第2学期	9	ポスター制作	主題を視覚的に伝達する方法を考える。主催者の意図を把握し、自分自身の表現の特性を生かす。		魅力的なデザインとはなんだろう
	10				
	11	紙立体	立体造形の楽しみを知る。立体の特徴を理解し、構成、構築を考える。		素材の特性をいかしたデザインとはなんだろう
	12				
第3学期	1	ポスター制作	主題を視覚的に伝達する方法を考える。主催者の意図を把握し、自分自身の表現の特性を生かす。		魅力的なデザインとはなんだろう
	2				
	3				

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「 美術探究 」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
1	美術科	探究	美術探究	2	必修
教科書	美術史のきほん(京都芸大鑑賞教育研究会、秀学社編集部)				
副教材	すぐわかる西洋の美術(東京美術)				

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	文化遺産や美術文化について基本的な知識を身につける	新たな美術文化を創造していく基礎となる研究手法を身につける	主体的に探究し、伝統や文化を体験的に学ぶ

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	5	3	2
主な評価方法	定期考査(知識、観察力、思考力)		
	探究レポートの内容と(課題発見、画像分析、思考力、歴史認識)と提出状況		
		プレゼンテーション(表現力)の内容と準備	

履修上の注意及び学習のアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ①教科書をしっかり読む ②画像の変化とテキストを関連付ける ③議論から本質をつかむことを目指そう
------------------	--

※備考 二高ICEモデルとは？	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	仏教美術	美術史を学ぶために必要な知識を学ぶ		この画像の特徴から読み取れることは何か
	5	飛鳥時代 奈良時代	画像分析からその時代の特徴を導く		この画像の特徴から読み取れることは何か
	6	平安時代の彫刻、建築 鎌倉時代の彫刻、建築 室町時代の彫刻、建築	画像分析からその時代の特徴を導く	期末考査	この画像の特徴から読み取れることは何か
	7	平安時代から室町時代の絵画	画像分析からその時代の特徴を導く		この画像の特徴から読み取れることは何か
第2学期	9	江戸時代の絵画 明治時代	画像分析からその時代の特徴を導く		この画像の特徴から読み取れることは何か
	10	印象主義 探究レポート制作	時代を代表する作品の特徴とその背景を考える		あなたにとって美術史のターニングポイントは何時代の時代か
	11	探究レポート発表	プレゼンテーションとディスカッションを通してより深い分析を行う	期末考査	発表を聞いて発見したこと
	12	新古典主義、ロマン主義 バロック、ロココ ルネサンス	画像分析からその時代の特徴を導く		この画像の特徴から読み取れることは何か
第3学期	1	中世 古代ローマ、ギリシャ エジプト	画像分析からその時代の特徴を導く		この画像の特徴から読み取れることは何か
	2	探究レポート	自分自身の制作や美術との関わりに強い影響を与えらると思われる作品を分析する	学年末考査	あなたのこれからの制作のターニングポイントになりそうな作品は何か
	3	探究レポート発表	プレゼンテーションとディスカッションを通して、自分自身と向き合い、美術・文化と主体的に関わる姿勢を持つ		発表を聞いて発見したこと

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「素描」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
1	美術科	美術	素描	2	必修
教科書	“つくる・見る・学ぶ 美術のきほん—美術資料 (京都市立芸術大学美術教育研究会、日本文教出版編集部)”				
副教材					

	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
学習の目標	基本的な描写力を身につけ、技法の違いや効果、手順等を説明できる。	素描を通して表現の基礎となる知識や技能を総合的に働かせて独創的に思考、判断し、表現できる。	視覚表現が果たす社会的役割や関係性を理解し、新たな意味や価値を創造することができる。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	4	4	2
主な評価方法	主に作品の(途中段階、完成段階、)で知識及び技術の評価を行います。		
	クロッキーやワークシートを基に主題の捉え方、構図、表現の工夫等を評価します。		
	進捗状況、自己評価等をもとに素描への関心・意欲・態度等を評価します。		

履修上の注意及び学習のアドバイス	<p>実習が中心の授業となります。指示された画材は各自で準備してください。専門の道具などは指導者の指示に従い、注意して手入れしてください。</p> <p>授業以外にも制作時間を十分にとって、完成度を高めてください。</p> <p>内容に応じて、他の専門科目と展開授業を行います。</p> <p>制作終了時に講評会を行います。講評の際はメモを用意してください。</p> <p>エスキースや資料集め、動画視聴等の予習が必要な場合があります。指示に従って事前準備をしてください。</p>
------------------	--

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
二高ICEモデルとは？	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考查	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	鉛筆デッサン	木炭デッサンの基礎演習を通して、形を修正しながら描き進める姿勢を養う。		見ること、描くことの意味を考えよう
	5	静物画 (F15・油彩)	油絵の具の基本的な使い方、用具のメンテナンス等を学ぶ。	期末考 査	平面に空間を表現する意味を考えよう
	6				
	7	静物デッサン	鉛筆による基本的な描写力を身につける		
第2学期	9	木炭デッサン② (石膏像)	デッサンの姿勢や木炭の基本的な使い方を学ぶ。石膏像をクロッキーし、バランスの良い構図を考える習慣を身につける。デッサンスケール等の使用方法を学び、比率に関する理解を深める。明暗の調子、量感を感じ取る	中間考 査	見ること、描くことの意味を考えよう
	10			期末考 査	
	11				
	12	木炭デッサン	デッサンの姿勢や木炭の基本的な使い方を学ぶ。石膏像をクロッキーし、バランスの良い構図を考える習慣を身につける。デッサンスケール等の使用方法を学び、比率に関する理解を深める。明暗の調子、量感を感じ取る		自分自身の表現につながるデッサンをしよう
第3学期	1	卓上デッサン	油絵の具の基本的な使い方、用具のメンテナンス等を学ぶ。	学年 末考 査	自分自身の表現につながるデッサンをしよう
	2				
	3				

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「ビジュアルデザイン」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
2	美術科	専門美術	ビジュアルデザイン	2	必修
教科書	「つくる 見る 学ぶ 美術の基本」				
副教材					

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	ビジュアルデザインに関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、独創的・創造的に表すことができるようになる。	ビジュアルデザインに関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、創造的な思考・判断・表現ができるようになる。	主体的にビジュアルデザインに関する専門的な学習に取り組み、その可能性を追求する態度を養う。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	4	4	2
主な評価方法	主に作品(途中段階、完成段階)で知識及び技能		
		エスキースやワークシートを基に、主題の生成や構想、表現に向けた判断力等	
			進捗状況、グループワークの様子、自己評価等

履修上の注意及び学習のアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から興味のある「デザイン」を集めておきましょう（画像やポスター、パッケージなど） ・授業では個人的に必要な「資料や材料（画材など）」が準備できることは制作を進める上で重要なポイントです。 ・Chromebookは作品制作や課題の提出、振り返りに取り組みます。毎時、持参して下さい。
------------------	---

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	二高ICEモデルとは？ Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	「エディトリアルデザイン」 ・自主制作プレゼン資料作成 ・ポートフォリオの作成	・主題に応じて紙面をレイアウトしする。 ・読み手に伝わる印象を考慮し、効果的な文字組みや画像のレイアウトを考えることができるようになる。		レイアウトで変わる印象の違いを説明できますか？
	5	「ビジュアルデザイン①」 ・色彩構成によるポスター制作 テーマ「読書」	・「読書の魅力を伝える」をテーマとして、色面によるビジュアルイメージを考える。 ・クライアントの思いを想像し、社会との繋がりをイメージしてデザインする姿勢を養う。		作品にある色彩（面、点、線）の配置や変化で生まれる効果にはどのようなものがあるだろう。
	6	「ビジュアルデザイン②」 ・パッケージの構成要素を抽出したビジュアルイメージ制作	・製品のパッケージデザインを分析し、デザイナーの工夫や意図を探る。 ・自分の主題に応じて、製品の魅力を伝える効果的なビジュアルイメージを制作する姿勢を養う。		デザイナーはどのような意図でパッケージを制作したのだろうか？ パッケージデザインに見られる構成要素は？
	7				
第2学期	9	「トータルデザイン」 ・文化祭企画のデザイン ・クラスTシャツの作成	・施設や企画等のトータルデザインを例に、その役割、効果を考え、分析し理解を深める ・主題に応じてビジュアルデザインの表現方法を選択し、条件に合ったビジュアルイメージの提案ができるようになる。		伝えたいイメージをもとに、統一感を意識したデザインが生まれるための工夫は？
	10				
	11	「ビジュアルデザイン③」 ・総体、総文ポスター制作	・課題を理解し、主題に応じてビジュアルデザインの表現方法を選択し、条件に合ったビジュアルイメージの提案ができるようになる。 ・主題を生成し、効果的なビジュアルイメージの構成を練ることができる。		選択した主題にマッチした表現技法は？
	12				
第3学期	1	「ビジュアルデザインの歴史」	美術史におけるデザインの変遷について学び、産業構造等の社会背景や科学技術の発展とデザインの関係について考えることができる。		産業構造等の社会背景や科学技術の発展とデザインの変遷にはどのような関係があると思いますか？
	2	「ビジュアルデザイン④」 ・「卒業」をテーマにしたビジュアルイメージの制作	課題を理解し、条件に合ったビジュアルイメージの提案ができるようになる。 ・主題を生成し、効果的なビジュアルイメージの構成を練ることができる。		視覚伝達デザインの果たす役割とは？伝えるべき情報は？
	3				

※行事等に変更になる場合があります。

令和5年度「絵画」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
2	美術科	専門美術	絵画	2	必修
教科書	「つくる 見る 学ぶ 美術の基本」				
副教材					

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	絵画に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、独創的・創造的に表すことができるようになる。	絵画に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、創造的な思考・判断・表現ができるようになる。	主体的に絵画に関する専門的な学習に取り組み、その可能性を追求する態度を養う。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	4	4	2
主な評価方法	主に作品(途中段階、完成段階)で知識及び技能		
		エスキースやワークシートを基に、主題の生成や構想、表現に向けた判断力等	
			進捗状況、グループワークの様子、自己評価等

履修上の注意及び学習のアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から興味のある作品や画像を集めていきましょう (イメージストック)。 ・デッサンやクロッキー、ドローイングは授業を支えてくれる活動ですので、授業外でも取り組んで下さい。 ・授業では個人的に必要な「資料や材料 (画材など)」が準備できることは制作を進める上で重要なポイントです。 ・Chromebookは作品制作や課題の提出、振り返りに取り組みます。毎時、持参して下さい。
------------------	---

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
二高ICEモデルとは？	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	・デッサン～自画像～ 「水彩画～屋外で描く～」	・自画像や風景画について理解を深めるとともに、創造的に表すことができるようになる。 ・専門的な知識や技能を総合的に働かせ、創造的な思考、表現ができるようになる。 ・主体的に絵画に関する専門的な学習に取り組み、感性を磨き続ける姿勢を身につける。		自分が感じ取った美しさや主題が伝わるためには、どんな工夫ができますか
	5				
	6	・デッサン～静物～ 「日本画～夏を描く～」	・日本画に関する専門的な内容について理解を深めるとともに、独創的・創造的に表すことができるようになる。 ・日本画に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、創造的な思考、表現ができるようになる。 ・主体的に日本画に関する学習に取り組み、感性を磨き、美術文化の継承、発展、創造に寄与する態度を養う。		自分の主題にあった絵の具の「表情」を追究してみよう。 日本画家の作品に見られる絵の具の扱い、そこから感じられる印象は？
	7				
第2学期	9	・ドローイング 「自己の世界を広げる」 自分の主題にあった画材を選択し、 絵画制作に挑む	・自分が選択した表現に関する内容について探究し、独創的・創造的に表すことができるようになる。 ・絵画に関する知識や技能を総合的に働かせ、創造的な思考・判断・表現ができるようになる。 ・主体的に絵画に関する専門的な学習に取り組みることができる。		画材の特性を生かし、主題を追究してみよう。
	10				
	11	・ドローイング、クロッキー 「油彩画・水彩画 ～人物を描く～」	・油彩・水彩画に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、独創的・創造的に表すことができるようになる。		自分が感じ取った美しさや主題が伝わるためには、どんな工夫ができますか？
	12				
第3学期	1	・ドローイング、クロッキー 「油彩画・水彩画 ～静物を描く～」	・油彩・水彩画に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、創造的な思考・判断・表現ができるようになる。 ・主体的に絵画の専門的な学習に取り組み、感性を磨き、美術文化の継承、発展、創造に寄与する態度を養う。		なぜ、そのモチーフを選んだのか？なぜその構図なのか？
	2				
	3				

※行事等に変更になる場合があります。

令和5年度「彫刻」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
2	美術科	専門美術	彫刻	2	必修
教科書	「つくる 見る 学ぶ 美術の基本」				
副教材					

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	彫刻に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、独創的・創造的に表すことができるようになる。	彫刻に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、創造的な思考・判断・表現ができるようになる。	主体的に彫刻に関する専門的な学習に取り組み、その可能性を追求する態度を養う。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	4	4	2
主な評価方法	主に作品(途中段階、完成段階)で知識及び技能		
		エスキースやワークシートを基に、主題の生成や構想、表現に向けた判断力等	
			進捗状況、グループワークの様子、自己評価等

履修上の注意及び学習のアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日頃から興味のある作品や画像を集めていきましょう (イメージストック)。 ・ デッサンやクロッキー、ドローイングは授業を支えてくれる活動ですので、授業外でも取り組んで下さい。 ・ 授業では個人的に必要な「資料や材料 (画材など)」が準備できることは制作を進める上で重要なポイントです。 ・ Chromebookは作品制作や課題の提出、振り返りに取り組みます。毎時、持参して下さい。
------------------	---

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
二高ICEモデルとは?	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	・クロッキー（人物）	人体の構造を意識しながら対象の全体像を素早く把握できるようにする。		人体の構造を意識しながら対象の全体像を素早く捉えてみよう。
	5	・クロッキー（自然物と人工物） 「幾何形体と自然物の立体構成」	モチーフの特徴を観察し、粘土の可塑性を生かし、形を確かめながら近づけていく。フォルムの面白さやモチーフ同士の構築を意識し、動静について理解を深める。また、制作活動を通して粘土の保管方法や用具の使用方法を習得する。		フォルムの面白さやモチーフ同士の構築を意識し、動静について考えてみよう。
	6				
	7	・クロッキー（人物） 「人体解剖学」	人体解剖学の基礎を学び、人体彫刻の鑑賞を通して理解を深める。（頭像、胸像、半身像、等身像、トルソ等）		背骨の曲がり具合、骨盤の傾き等確かめてみよう。
第2学期	9	・クロッキー（腕、手） 「手から主題を見出して」	手の特徴を観察して主題を生成し、構想を練る。粘土の可塑性を生かし、形を確かめながら制作する。また、立体制作に必要な芯材、重心の知識を習得する。		表情豊かな手が生み出す「魅力的な構成（空間）」を考えよう。
	10				
	11	「面による立体構成」	ステレンボード等を用いて面の構成による立体を制作する。あらゆる角度から鑑賞に耐えうる配置を考え、理想的なバランスについて多視点、多面的に考える姿勢を養う。		点・線・面・立体の関係は？バランスの良い面の構成とは？
	12				
第3学期	1	鑑賞	具象彫刻だけでなく抽象彫刻について触れ、作家の変遷を通して抽象表現の考え方を学ぶ。		抽象とは？
	2	「彫刻探究（個別設定課題）」	主題に応じて素材や技法を選択し、彫刻を制作することで、これまでに学んだ知識を統合する。塑造の場合は型取りの方法について学習し、作品として展示する際の工夫についても考える。		立体で表現するに相応しい主題を考えてみよう。
	3				

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「ビジュアルデザイン」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
3	美術科	美術	VD	2	必修
教科書	WARM UP!				
副教材					

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	ビジュアルデザインに関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、独創的・創造的に表すことができるようになる。	ビジュアルデザインに関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、創造的な思考・判断・表現ができるようになる。	主体的にビジュアルデザインに関する専門的な学習に取り組む、その可能性を追求する態度を養う。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合			
主な評価方法	ワークシート・アイデアスケッチ等の提出状況		
	実技課題の提出状況と取組状況		
		レポート課題（発表・振り返り）の提出状況とその取組状況	

履修上の注意及び学習のアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・制作途中の作品を振り返り、自己評価を行います。（Google Classroomの課題） ・作品完成後は作品をプレゼンテーションしたり、互いに講評し合い、自身の思考の広がり、深まりを評価します。 ・完成作品や振り返りの記録（ワークシート等）を、題材に応じた観点で評価します。
------------------	--

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	二高ICEモデルとは？ Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	卒業をテーマにしたビジュアルイメージの構想	・課題を理解し、条件に合ったビジュアルイメージの提案ができるようになる。		・このビジュアルイメージのコンセプトは何ですか？
	5	卒業をテーマにしたビジュアルイメージの作成	・主題を生成し、効果的なビジュアルイメージの構成を練ることができる。		・作品の魅力を造形要素をもとに分析し、評価しよう。
	6	テーマ別課題① 自分のテーマに応じた課題を設定し、制作に取り組む。	・自身の主題を生成し、素材や技法を選択して構成を練り、表現を追求する。		・作品について（主題、素材、技法）説明してください。
	7	ビジュアルデザインの効果と役割	・身近なビジュアルデザインを例に、その役割、効果を考え、分析する。 ・完成したデータをプレゼンテーションする。		・ビジュアルデザインの目的や効果は？
第2学期	9	自分を伝えるデザイン ①ポートフォリオ作成 ②作品集のレイアウト	・ポートフォリオや作品集の作成目的や効果を理解し、必要な素材を集める。		・ポートフォリオのコンセプトと使用方法は？
	10	自分を伝えるデザイン ①ポートフォリオ作成 ②作品集のレイアウト	・ポートフォリオや作品集の構成を練り、準備した画像を編集する。		・分かりやすく、見やすい紙面を作るための工夫は？
	11	テーマ別課題② 自分のテーマに応じた課題を設定し、制作に取り組む。	・自身の主題を生成し、素材や技法を選択して、表現を追求する。		・作品について（主題、素材、技法）説明してください。
	12	テーマ別課題③ 自分のテーマに応じた課題を設定し、制作に取り組む。	・自身の主題を生成し、素材や技法を選択して、表現を追求する。		・作品について（主題、素材、技法）説明してください。
第3学期	1				
	2				
	3				

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「絵画」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
3	美術科	美術	絵画	2	必修
教科書	WARM UP!				
副教材					

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	絵画に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、独創的・創造的に表すことができるようになる。	絵画に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、創造的な思考・判断・表現ができるようになる。	主体的に絵画に関する専門的な学習に取り組み、感性を磨き、絵画表現を追求する態度を養う。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合			
主な評価方法	ワークシート・アイデアスケッチ等の提出状況		
	実技課題の提出状況と取組状況		
		レポート課題（発表・振り返り）の提出状況とその取組状況	

履修上の注意及び学習のアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・制作途中の作品を振り返り、自己評価を行います。（Google Classroomの課題） ・作品完成後は作品をプレゼンテーションしたり、互いに講評し合い、自身の思考の広がり、深まりを評価します。 ・完成作品や振り返りの記録（ワークシート等）を、題材に応じた観点で評価します。
------------------	--

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考查	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	ドローイングで広がる世界	・様々な画材、描画方法を通してドローイングに取り組み、画面上に現れたイメージや現象を追求する。		・自分が心地よいドローイングはどれですか？
	5	風景画	・風景をもとに自分の主題を生成し、表現する。 ・主題に応じた画材の選択し、表現方法を工夫する。		・風景画の主題は？作品中の主役はどれですか？
	6	テーマ別課題① 自分のテーマに応じた課題を設定し、制作に取り組む。	・自身の主題を生成し、素材や技法を選択して、表現を追求する		・作品について（主題、素材、技法）説明してください。
	7	人物を描く	・人物モデルの描画を通して、自身の主題に迫る。		・作品の主題は何ですか？
第2学期	9	空想の世界を描く	・自身の経験や夢、希望などをもとに主題を生成し、絵画の構成を練る。 ・主題や構成に応じた素材を追求する。		・作品について（主題、構成）説明してください。
	10	空想の世界を描く	・主題や構成に応じた表現技法を追求する。 ・自分や友人の作品について、造形要素や構成美などをもとに、批評する。		・作品について（素材、技法）説明してください。
	11	テーマ別課題② 自分のテーマに応じた課題を設定し、制作に取り組む。	・自身の主題を生成し、素材や技法を選択して、表現を追求する。		・作品について（主題、素材、技法）説明してください。
	12	テーマ別課題② 自分のテーマに応じた課題を設定し、制作に取り組む。	・自身の主題を生成し、素材や技法を選択して、表現を追求する。		・作品について（主題、素材、技法）説明してください。
第3学期	1				
	2				
	3				

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「鑑賞研究」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
3	美術科	美術	鑑賞研究	2	必修
教科書	快読 現代の美術 絵画から都市へ				
副教材					

	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
学習の目標	美術作品や文化財などの特質や背景などについて理解を深める。	鑑賞の視点を深化させる創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。	美術や美術文化を尊重する態度を養う。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合			
主な評価方法	グラフィックレポートなど (途中段階、完成段階)	ポートフォリオ等	活動中の取組状況

履修上の注意 及び 学習の アドバイス	指示された画材など必要に応じて各自で準備してください。 授業以外にも時間を十分にとって、内容を深めてください。 学習内容に応じて、他の専門科目と展開授業を行います。 エスキースや資料集め、動画視聴等の予習が必要な場合があります。指示に従って事前準備をしてください。
------------------------------	---

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	二高ICE モデルとは？ Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	①自分らしさの発見 ・美術と自分を分析する12の質問	●自己の美的価値観を形成している背景にある、文化的、社会的な状況や環境、条件などを調べたり、将来の展望について検討したりすることができる。 ●考察したことを踏まえて、自己アピールを作成することができる。		・「自分らしさ」とは一体何？自分と美術や美術文化は今後どのように変化していくだろうか。
	5	②グラフィックレポートを作ろう ・作品及び作家等に関する研究	●文献等での調査や研究を通して、作品や作家、表現の特徴や美術史上の位置付けなど鑑賞の研究に必要な内容の理解を深める。 ●研究したことをグラフィックレポートにまとめ、発表することができる。		・美術史（年表）は本当につながっている？美術史に加えるべき新たなジャンルとは？
	6	③デザインの視点から ・他者に伝えるポートフォリオ	●①で研究した内容の根拠となる資料などを精選し、他者に分かりやすく伝える工夫について理解を深める。 ●ビジュアルデザインの視点も踏まえてポートフォリオにまとめることができる。		・自分の世界観や経験を伝える「必要十分」の要素とは？
	7	④アートエッセイを書こう ・思いを表す2000字	●自己の見方や感じ方を大切に、根拠を持って論考し、討論したり、批評したりすることができる。 ●研究したことをアートエッセイにまとめ、発表することができる。		・「作品でしか表せないもの」と「言葉の方が伝わるもの」があるとして、何が違う？
第2学期	9	⑤企画展をしよう ・作家と鑑賞者の立場から	●展示する側と鑑賞する側の双方の立場に立って、展示企画や構成、展示方法などを工夫する。 ●研究したことを反映させて展示計画を立て、作品を制作することができる。		・良い展覧会とはどのようなものだろうか？
	10	⑥美術館の役割 ・展示～相互鑑賞 ※美術科制作展	●会場の特性を把握し、展示方法や照明などの環境設定を行うことができる。 ●鑑賞者の行動や気持ちを推量するだけでなく、展示の在り方について考察し、作品について意見交換することができる。		・美術館やギャラリーが社会に果たす役割とそれを支える人たちは？
	11	⑦文化財の保存と継承 ・熊本の伝統文化	●地域の特徴ある美術や工芸、美術文化について興味を持ち、良さや美しさを味わうことができる。 ●伝統文化財の魅力や今後の課題などを理解し、維持や振興に寄与する態度を養う。		・もし地域特有の文化が無かったら？伝統を「守る」と「変化する」ことの意味とは？
	12	⑧見方を変えると広がる世界 ・これからの私と美術	●日々の生活の中の美術の存在を意識し、美術の役割や心豊かに生きることと術の関わりについて考える。 ●これまでの学習を振り返り、最終的なポートフォリオを仕上げる。		・生活の中で鑑賞する場面は？美術と関わることによって人生を豊かにできるだろうか？
第3学期	1				
	2				
	3				

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「構成」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
3	美術科	美術	構成	1	必修
教科書	WARM UP!				
副教材					

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	構成に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、独創的・創造的に表すことができるようになる。	構成に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、創造的な思考・判断・表現ができるようになる。	主体的に構成に関する専門的な学習に取り組み、感性を磨き、造形感覚を高めようとする態度を養う。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合			
主な評価方法	ワークシート・アイデアスケッチ等の提出状況		
	実技課題の提出状況と取組状況		
		レポート課題（発表・振り返り）の提出状況とその取組状況	

履修上の注意及び学習のアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・制作途中の作品を振り返り、自己評価を行います。（Google Classroomの課題） ・作品完成後は作品をプレゼンテーションしたり、互いに講評し合い、自身の思考の広がり、深まりを評価します。 ・完成作品や振り返りの記録（ワークシート等）を、題材に応じた観点で評価します。
------------------	--

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1 学期	4	造形要素の理解と演習① ・ポスター、平面作品、立体作品の 造形要素・構成美を捉える。	ポスター、平面作品、立体作品の造形要素・構成 美を捉え、自身の制作に活かす。		作品にある造形要素は？
	5	造形要素の理解と演習① ・造形要素を踏まえた作品の分析。	造形要素を踏まえた作品の分析ができるようにな る。		造形要素の関連による印象の違い を探ろう。
	6	テーマ別課題① 自分のテーマに応じた課題を設定 し、制作に取り組む。	・自身の主題を生成し、素材や技法を選択して、 表現を追求する。		・作品について（主題、素材、技 法）説明してください。
	7	レイアウトを考える（冊子の画面を 構成する）	文字や写真で構成をする際に必要な知識、留意点 を理解する。 目的に応じてどのような構成（情報の選択・配 置）がふさわしいかを考えることができる。		・その冊子（チラシ、ホームペー ジ）は誰に、何を伝えるためのも のですか？
第2 学期	9	造形要素の理解と演習②	造形要素・構成美を捉え、作品の分析ができるよ うになる。		・美しい構成のために必要な要素 は？
	10	造形要素の理解と演習②	作品展示やポートフォリオなど、実用的な場面で 造形要素や構成美を生かすことができるようになる。		・機能を兼ね備えた美とは？
	11	テーマ別課題② 自分のテーマに応じた課題を設定 し、制作に取り組む。	・自身の主題を生成し、素材や技法を選択して、 表現を追求する		・作品について（主題、素材、技 法）説明してください。
	12	テーマ別課題② 自分のテーマに応じた課題を設定 し、制作に取り組む。	・自身の主題を生成し、素材や技法を選択して、 表現を追求する		・作品について（主題、素材、技 法）説明してください。
第3 学期	1				
	2				
	3				

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「素描」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
3	美術科	美術	素描	2	必修
教科書	WARM UP!				
副教材					

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	素描に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、独創的・創造的に表すことができるようになる。	素描に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、創造的な思考・判断・表現ができるようになる。	主体的に素描に関する専門的な学習に取り組み、感性を磨き、造形表現を追求する態度を養う。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	1/3	1/3	2/3
主な評価方法	中間考査、期末考査の結果		
	実技課題の提出状況と取組状況		
		レポート課題（振り返り）の提出状況とその取組状況	

履修上の注意及び学習のアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・制作途中の作品を振り返り、自己評価を行います。（Google Classroomの課題） ・作品完成後は作品をプレゼンテーションしたり、互いに講評し合い、自身の思考の広がり、深まりを評価します。 ・完成作品や振り返りの記録（ワークシート等）を、題材に応じた観点で評価します。
------------------	--

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの				
	二高ICEモデルとは？	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする	

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考查	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	石膏デッサン	・対象の特徴を理解し、描写方法を工夫する。 ・作品を造形要素で分析し、自身の強み・弱点を理解し、次の制作につなげる。		・石膏像から受ける印象を表現するために、どのような描写の工夫ができますか？
	5	テーマ別課題① 自分のテーマに応じた課題を設定し、制作に取り組む。	・自身の主題を生成し、素材や技法を選択して、表現を追求する。	○	・作品について（主題、素材、技法）説明してください。
	6	静物デッサン	・対象の特徴を理解し、描写方法を選択・工夫する。 ・観察力と描写力を高める。	○	・モチーフの特徴が出るためにはどんな描写の工夫ができますか？
	7	人物デッサン	・対象の構造を理解し、描写方法を工夫する。 ・作品を造形要素で分析し、自身の強み・弱点を理解し、次の制作につなげる。		・人物の構造、人物を支える空間を描くためにはどんな工夫ができますか？
第2学期	9	石膏デッサン・静物デッサン	・自分の選択した描画材、モチーフをもとに、基礎造形力を高める。	○	・モチーフの特徴が出るためにはどんな描写の工夫ができますか？
	10	構成デッサン	・モチーフを画面上で構成して、デッサンに取り組む。		・構成、主題を伝えるためにどのような描画の工夫をしましたか？
	11	テーマ別課題② 自分のテーマに応じた課題を設定し、制作に取り組む。	・自身の主題を生成し、素材や技法を選択して、表現を追求する	○	・作品について（主題、素材、技法）説明してください。
	12	テーマ別課題② 自分のテーマに応じた課題を設定し、制作に取り組む。	・自身の主題を生成し、素材や技法を選択して、表現を追求する		・作品について（主題、素材、技法）説明してください。
第3学期	1				
	2				
	3				

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「彫刻」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
3年	美術科	美術	彫刻	2	必修
教科書	WARM UP!				
副教材					

	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
学習の目標	彫刻に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、独創的・創造的に表すことができるようになる。	彫刻に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、創造的な思考・判断・表現ができるようになる。	彫刻に関する専門的な学習に主体的に取り組み、感性を磨き、立体表現を追求する態度を養う。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合			
主な評価方法	ワークシート・アイデアスケッチ等の提出状況		
	実技課題の提出状況と取組状況		
		レポート課題（発表・振り返り）の提出状況とその取組状況	

履修上の注意及び学習のアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・制作途中の作品を振り返り、自己評価を行います。（Google Classroomの課題） ・作品完成後は作品をプレゼンテーションしたり、互いに講評し合い、自身の思考の広がり、深まりを評価します。 ・完成作品や振り返りの記録（ワークシート等）を、題材に応じた観点で評価します。
------------------	--

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
二高ICEモデルとは？	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	人体彫刻における構造と動勢	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構築性と動勢の理解 ・ 幅広い彫刻表現を理解し、自身の表現に活かす。 		・ 像の構造や動きが与える印象の違いは？
	5	テーマ別課題① 自分のテーマに応じた課題を設定し、制作に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自身の主題を生成し、素材や技法を選択して、表現を追求する。 		・ 作品について（主題、素材、技法）説明してください。
	6	人体彫刻における内的表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人体彫刻における感情の表現に着目し、理解を深め、自身の表現に活かす。 		・ 作品のどのような部分で内面を想像できるか？
	7	幾何形体による立体表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 造形要素の理解を深める。 ・ 素材の加工方法、道具の扱いを理解する。 		造形要素をもとに、作品を解説してください。
第2学期	9	立体構成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意図に応じて造形要素を選択し、表現する。 ・ 素材の加工方法、道具の扱いを習得する。 		・ 主題をどのように形・構成に表した（反映させた）か？
	10	立体構成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意図に応じて造形要素を選択し、表現する。 ・ 素材の加工方法、道具の扱いを習得する。 		・ 主題をどのように形・構成に表した（反映させた）か？
	11	テーマ別課題② 自分のテーマに応じた課題を設定し、制作に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自身の主題を生成し、素材や技法を選択して、表現を追求する。 		・ 作品について（主題、素材、技法）説明してください。
	12	テーマ別課題② 自分のテーマに応じた課題を設定し、制作に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自身の主題を生成し、素材や技法を選択して、表現を追求する。 		・ 作品について（主題、素材、技法）説明してください。
第3学期	1				
	2				
	3				

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「版画」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
3	美術科	美術	版画	2	選択
教科書	WARM UP!				
副教材					

	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
学習の目標	表現形式の特性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付ける。	表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。	版画表現の可能性を追求する態度を養う。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合			
主な評価方法	作品（途中段階、完成段階）	エスキース、ワークシート等	活動中の取組状況

履修上の注意及び学習のアドバイス	<p>実習が中心の授業となります。指示された画材は各自で準備してください。専門の道具などは指導者の指示に従い、注意して手入れしてください。</p> <p>授業以外にも制作時間を十分にとって、完成度を高めてください。</p> <p>内容に応じて、他の専門科目と展開授業を行います。</p> <p>エスキースや資料集め、動画視聴等の予習が必要な場合があります。指示に従って事前準備をしてください。</p>
------------------	--

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする
二高ICEモデルとは？			

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考查	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	①版画の種類 ・凸版 ・凹版 ・孔版 ・平版 ②浮世絵木版の魅力	①版技法の仕組みと特徴を知り、様々な時代や地域において表現された版画の良さを感じ取り、理解する。 ②浮世絵版画の高度な技術や構成などから、日本の美術の素晴らしさなどを感じ取り、理解を深め		・有名な画家も版画を制作しているのか？ ・そもそもなぜ版画で表現するのか？ ・当時の浮世絵はなぜ安価に販売されたのか？
	5	【木版画演習】 ③主題の生成 ④下絵作成 ⑤彫り～刷り	③俳句や詩を基に主題を生成する。 ④形や構成を工夫して構想を練る。 ⑤材料や用具を生かして表現する。		・現代の社会では何がテーマになるか？ ・自刻字刷ならではのアレンジはどのようなものか？
	6	⑥展示～相互鑑賞 【銅版画演習Ⅰ】 ⑦主題の生成 ⑧下絵制作	⑥相互鑑賞で作者の意図や工夫を理解する。 ⑦独自の世界観を基に主題を生成する。 ⑧線描を生かして構想を練る。		・造形の要素はどのような1つしているか？ ・作風や様式はどのようになっているか？ ・自分の世界観を形成する要素は何か？
	7	⑨製版～刷り ・エッチング ・アクアチント ⑩展示～相互鑑賞	⑨材料や用具を生かして表現する。 ⑩相互鑑賞で作者の意図や工夫を理解する		・木版画との共通点と相違点を基に、自己の適性を分析すると？
第2学期	9	【銅版画演習Ⅱ】 ⑪主題の生成 ⑫下絵制作 ⑬製版～刷り ・メゾチント	⑪独自の世界観を基に主題を生成する。 ⑫モノトーンを生かして構想を練る。 ⑬材料や用具を生かして表現する。		・版表現の複数性をどのように生かせるか？
	10	⑭展示～相互鑑賞 ・美術科制作展	⑭相互鑑賞で作者の意図や工夫を理解する。		・生活や社会と作品をつなぐ接点をどこに見つけることができたか？
	11	【版画探究】 ⑮版技法を生かした表現 ・ミクストメディア	⑮版技法を応用したり、組み合わせることで新たな表現の可能性を探る。		・間接技法のメリットとデメリットをどう使い分けるか？
	12	⑯プレゼンテーション	⑯これまでの学習を振り返り、ポートフォリオなどにまとめる。		・版画で得た新しい価値観とは？
第3学期	1				
	2				
	3				

※行事等で変更になる場合があります。